

資料の探し方And More

国際教育交流センター教授 庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. はじめに

- 現在、論文や本などの資料は大量に存在し、その検索も基本的にはインターネット上でできるようになっている
- 特に、第二部門は国立国語研究所の図書館が利用できることで、**日本語研究における「世界一の」環境**を享受している
- その特権を最大限に活かして欲しい

2. 今日の内容

- 1. 検索サイトと検索するときの注意点
- 2. 温故知新(1)―国語研報告書など―
- 3. 温故知新(2)―南(1974)、金田―(1988)―
- 4. リビュー論文の活用
- 5. 英語の論文を読もう
- 6. とにかく記録しよう

1. 検索サイトと検索するときの注意点

- **検索サイト**
- 国立国語研究所日本語研究・日本語教育文献データベース
(国語研DB)
- Cinii
- J-Stage

1. 検索サイトと検索するときの注意点

- 言語形式を検索するときには「」付きで(も)検索してみる
- 例:のだ:973件 「のだ」:183件(国語研DB)
- 複合語の場合は切り離れた形で(も)検索してみる
- 例:感謝表現:72件 感謝 表現:218件(Cinii)
- より上位の語でも検索してみる
- 例:感謝 表現:218件 発話行為:524件(Cinii)
- →件数が増えると「ゴミ」も増えるが、見落としたものを拾える可能性も増える(コーパスにおける検索における原則)

2. 温故知新(1)―国語研報告書など―

- 国語研の研究報告書や日本語指導参考書には重要なものが多い
- 国立国語研究所報告
- 『現代雑誌九十種の用語用字1～3』(国語研語彙調査の金字塔)
- 宮島達夫『動詞の意味・用法の記述的研究』
- 西尾寅弥『形容詞の意味・用法の記述的研究』
- 『話しことばの文型(1)(2)』
- 『幼児の文法能力』(日本語のL1習得研究の第一次資料)

2. 温故知新(1)―国語研報告書など―

- 国語研の研究報告書や日本語指導参考書には重要なものが多い
- 日本語指導参考書
- 寺村秀夫『日本語の文法(上・下)』(『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』を補完する重要な書籍)
- 田中望・正保勇『日本語の指示詞』
- 池上嘉彦『談話の研究と教育Ⅰ』
- →いずれも当該分野での基本文献

3. 温故知新(2)―南(1974)、池上(1981)、金田一(1988)―

- **南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店**
- ☆ 複文における「南モデル」の関係で言及されることが多いが、敬語、文章、社会的変異なども包括したスケールの大きな研究
- **池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店**
- ☆ 日本語を「なる」型言語、英語を「する」型言語と捉えたことで有名だが、「起点と着点の非対称性」など、対照研究を考える際にも必読
- **金田一春彦(1988)『日本語 新版(上・下)』岩波新書**
- ☆ 日本語の特徴を様々な観点から、様々な言語との対照を通して記した名著

4. リビュー論文の活用

- 分野によっては、研究史を概観した論文 (**レビュー論文**) が刊行されているので参照するとよい
- 2000年・20xx年における日本語学界の展望 (『日本語の研究』)
- 特集「学会誌の回顧と展望」 (『日本語教育』153)
- また、入門書の参考文献一覧も有用
- **博士論文執筆を目指す人は自分でレビュー論文を書いてみよう**
- 庵功雄 (1999) 「テキスト言語学の観点から見た談話・テキスト研究概観」 『言語文化』36、一橋大学
- トルヒナ・アンナ (2012) 「再帰代名詞研究のこれまでとこれから—束縛原理の背景と展開—」 『一橋大学国際教育センター紀要』3

5. 英語の論文を読もう

- 多くの研究分野では、英語で書かれた論文（研究対象が英語とは限らない）を読むことが必須
- 特に、第二言語習得、発話行為関連、統語論、語彙論、語用論、社会言語学、教室内言語研究などでは不可欠
- ←理論やデータ収集の方法を知るため
- →国語研の図書館で英文雑誌のバックナンバーを見る
- (L2習得なら、*Studies in Second Language Acquisition (SSLA)*, *Language Learning*, *TESOL Quarterly*)
- (→最上の方法だが、現在は不可能)
- →先行研究の参考文献からたどっていく

5. 英語の論文を読もう

- 投稿論文の英文要旨
- →必ず、「論文を書き慣れている英語ができる人」に見てもらおう(難しければ、業者に依頼する)

5. 英語の論文を読もう

- 研究者にとって、まず必要なのは**英語の論文を読めること**
- そのために、英語の文法をしっかりと学び、英文をたくさん読む
- ←TwitterやFacebookで海外英語メディアなどをフォローする
- おすすめのサイト: [The Japan Times](#), [Amnesty International](#), [Aljazeera English](#), [BBC Learning English](#)など
- [Mr. Big](#) (北村一真『英語の読み方』中公新書)
- →「英語の文献があれば何とかなる」状態を目指そう

6. とにかく記録しよう

- 検索結果や街中で見つけた例文などは、**とにかく記録しよう**
- おすすめは**Evernote**
- Twitterなどで見つけた文章を記録しておく、読解の授業の資料などとして使えることも多い

まとめ

- 検索の際にはいろいろな方法を試してみることが重要
- **国語研のサイトには、戦後日本の言語研究、言語調査の貴重な記録が数多く眠っている**ので、ぜひその宝の山に分け入ってみて欲しい
- リビュー論文を活用し、博士論文のためには自分でも書いてみよう
- 多くの分野で英語の文献を読むことは必須
- 英語力を高めるために、英語に触れる時間を作るようにしよう
- みなさんの研究が実り多いものになることを祈っています